

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	3 学年
科目名	*言語理解	所属教科	国語科	単位数	2 単位 (選択)
指導概要 習得目標	国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。				
指 導 計 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容	時数 (予定)	
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の書き方</li> <li>評論・文芸の読解</li> <li>漢字やことわざ、四字熟語の学習などの基礎力づけ</li> </ul>	ア 授業課題についての趣旨・目標 (ねらい)・補足説明をあらかじめ聞く中で、自作の構成を真摯に熟慮する時間をとる。 イ 必要に応じ、取材や図書館などでの調査を通じて情報収集をはかる。 ウ 説得力があり魅力にあふれた文章を書くための漢字やことわざなどの学習や、的確な論理展開のために文法などの基礎教養 エ 習得を適宜とりいれる。	28 時間	
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>評論・文芸の読解</li> <li>漢字やことわざ、四字熟語の学習などの基礎力づけ</li> <li>意見文、手紙文、創作文などの作成</li> <li>上記発表</li> <li>スピーチ、討論</li> <li>コンクール、コンテスト、投稿への参加</li> <li>卒業制作への準備</li> </ul>	ア 必要に応じ、取材や図書館などでの調査を通じて情報収集をはかる。 イ 説得力があり魅力にあふれた文章を書くための漢字やことわざなどの学習や、的確な論理展開のために文法などの基礎教養習得を適宜とりいれる。 ウ 自作をもとにした口頭での発表を適宜取り入れる。 エ 他者の発表を聞く態度を養う。 オ 討論する機会を適宜取り入れ、話す力を養う。 カ コンクール・投稿などの場を大いに利用して、自分を表現する能力を高める。 キ 年度末への卒業制作への準備をする。	28 時間	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字やことわざ、四字熟語の学習などの基礎力づけ</li> <li>卒業制作の発表</li> </ul>	ア 説得力があり魅力にあふれた文章を書くための漢字やことわざなどの学習や、的確な論理展開のために文法などの基礎教養習得を適宜とりいれる。 イ 自作をもとにした口頭での発表を適宜取り入れる。 ウ 他者の発表を聞く態度を養う。 エ 討論する機会を適宜取り入れ、話す力を養う。 オ コンクール・投稿などの場を大いに利用して、自分を表現する能力を高める。 カ ※卒業制作を発表する。	14 時間		
授業展開	座学を中心としながら、図書館資料やタブレットを活用した語句・内容の調べ物学習を通して考察するよう工夫して指導する。				
使用教材等	「文学国語セレクション」東京書籍、国語表現ナビ (浜島書店)				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、説得力のある表現力を育てられるようにする。	創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
主な評価方法	小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、日頃の小テストとの比較検討を参考にしながら総合的に判断して評価する。

2026年度 教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	3学年
科目名	政治・経済	所属教科	公民科	単位数	2単位
指導概要と習得目標	社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる力を養う。 政治・経済に関する概念や理論などを活用して、社会に見られる課題を把握し、説明できるようにする。課題についての議論を通して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、我が国及び国際社会において積極的な役割を果たそうとする力を養う。				
指導計画	学期	指導事項	指導内容	時数(予定)	
	1	現代日本の政治	現代国家と民主政治 日本国憲法と基本的人権 日本の政治制度と政治参加 現代の経済社会 現代の日本経済と福祉の向上	28時間	
	2	現代の国際政治・経済	(1) 日本経済のあゆみとこれから (2) 国際政治の動向と課題 国際経済理論 国際経済の動向と課題	28時間	
	3	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	(1) SDGSの実現に向けて国際政治の動向と課題	14時間	
授業展開	教科書に沿って座学を中心としながら、各テーマの現状と課題をさまざまな資料から考察する。そして、政治・経済の諸課題に関わる具体的な主題と問いを基に解決策を検討する。諸課題を発見したうえで、その課題解決に向けた合意の形成をめざし、自分の考えを説明、論述する。				
使用教材等	教科書：「最新 政治・経済」(実教出版) 副教材：「最新 政治経済 演習ノート」(実教出版)				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	知識：公共的な空間での基本原理、方の意義役割、市場経済システム、持続可能な社会づくりの課題等について理解する。 技能：諸資料から公共的な空間に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。・自らを成長させる人としての在り方生き方について理解する	公共的な空間での基本原理を個人と社会の関わりに着目し、概念などを活用して多面的・多角的に考察する。社会全体に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論する力を身につける。	法や規範の意義及び役割、我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。司法参加の意義、政治参加と公正な世論の形成、地方自治など現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
主な評価方法	定期テストや小テストの結果および提出課題の結果を総合的に判断して評価する。	定期テストや小テストの解答の内容および提出課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、生徒の自己評価結果を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	3学年
科目名	*微分・積分	所属教科	数学科	単位数	2単位(選択)
指導概要と習得目標	微分学・積分学の概念を学び、様々な場面で応用されていることを知るとともに、その有用性を理解し、積極的に活用しようとする姿勢を養うとともに、そのために必要な基礎的な計算力を習得する。				
指 導 計 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容		時数
	1	関数の極限 関数値の極限  微分法 導関数  積・商の微分法 合成関数の微分法 逆関数の微分法 Xの $m/n$ 乗の導関数	関数の極限と極限值(分母の有理化)  数学II導関数の復習 微分係数と導関数の関係の理解(微分可能) 関数の積・商の導関数、Xの $n$ 乗の導関数 合成関数の微分方法の理解 逆関数の微分方法の理解 Xの $m/n$ 乗(有理数)の微分法への拡張の理解		28
	2	微分法 三角関数の導関数 対数関数の導関数  指数関数の導関数 高次導関数  不定積分 不定積分  置換積分法 部分積分法	三角関数の導関数を求め、それを用いての計算技術の習得 対数関数の導関数を求め、それを用いての計算技術の習得 自然対数 指数関数の導関数を求め、それを用いての計算技術の習得 第 $n$ 次導関数を求める  数学II不定積分の復習 微分の公式より不定積分の公式を導き、計算技術の習得 三角関数・指数関数・ $f(ax+b)$ の不定積分 合成関数の微分より置換積分の公式を導き、計算技術の習得 部分積分の公式を導き、計算技術の習得		28
	3	定積分 定積分  定積分の置換積分 定積分の部分積分 定積分のいろいろな計算  定積分の応用 面積 体積	(進度によりずれることもある) 不定積分の公式を用いて、定積分の計算技術の習得  不定積分の置換積分法の定積分への応用 不定積分の部分積分法の定積分への応用 偶関数と奇関数の定積分 定積分と微分の関係  定積分を用いて、面積を求める 定積分を用いて、体積を求める 回転体の体積		14
授業展開と評価	基本的には講義形式で行うが、併せてプリント学習で演習授業を取り入れる。 定期テスト、学習に対する意欲・関心、授業に取り組む姿勢、宿題等を考慮して、評価する。 必要に応じて、追試、補習によって学力の補充を行う。				
使用教材等	自主教材プリント、各種教具を使用する。				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	微分・積分の意味を理解している。 微分・積分の計算を行うことができる。	様々な関数の微分や積分を行うにあたって適切な計算を選択することができる。 問題解決の過程を適切に表現し、結果を振り返って統合的・発展的に考察することができる。	学習した内容を積極的に利用しようとしている。 粘り強く問題に取り組む姿勢を有するとともに、課題等へ主体的に取り組んでいる。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・授業プリント</li> <li>・課題（基礎的な知識・技能）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・授業プリント</li> <li>・課題（表現力・思考力・判断力）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での取り組み</li> <li>・課題評価（取り組み）</li> </ul>

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	3 学年
科目名	*物理特講	所属教科	理 科	単位数	2 単位 (選択)
指導概要 と 習得目標	1. 物理的な事物・現象に対する探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観の見方や考え方を育成する。 2. 工業を学ぶ上で必要な基礎知識を深める。				
指 導 計 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容	時数 (予定)	
	1	運動量 1 運動量と力積 2 運動量の保存 3 衝突とエネルギー  円運動と単振動 1 等速円運動 2 慣性力 3 単振動	・運動量と力積の関係を理解させる。 ・保存量としての観点から運動量をとらえさせ、運動量保存の法則を理解させる。 ・運動量の保存と力学的エネルギーの保存の違いを理解させる。 ・慣性力の考え方を理解させる。 ・等速円運動の速度、角速度、向心加速度、向心力や遠心力について理解させる。 ・単振動と円運動の関係を通して、単振動の周期、変位、速度、加速度を理解させる。	25	
	2	波の伝わり方 1 波の表し方 2 波の伝わり方  音 1 音の性質 2 ドップラー効果  光 1 光の性質 2 レンズと球面鏡 3 回折と干渉	・ホイヘンスの原理から波の回折、屈折、反射を理解させる。 ・音の伝わり方は、波の性質を示すことを理解させる。 ・ドップラー効果を、波の伝わり方から考えさせる。 ・観測者が運動する場合や音源、観測者がともに運動する場合のドップラー効果について理解させる。 ・光の回折や干渉など、光が波であることを示す典型的な現象について、ヤングの実験などを通して理解させる。	25	
	3	電磁誘導と電磁波 1 電磁誘導の法則 2 自己誘導と相互誘導 3 交流 4 電磁波	・交流回路の基本、特に、交流回路におけるコイルやコンデンサーの役割を理解させる。	20	
授業展開	基本的には講義形式で行うが、併せて「授業のまとめ」のノートづくり。問題集の演習。 定期テスト、実験、レポート等を考慮して、評価する。				
使用教材等	教科書：「物理」（実教出版） 「アクセスノート物理」 実教出版				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・自然の物理的な事物・現象に対して、基本的な概念や、原理・法則を理解し、身につけている。	・自然の物理的な事物・現象に問題を見だし、物理学的に探究する能力と態度が形成され、基本的な概念・法則を理解し、科学的な自然観をもつことができる。。	・自然の物理的な事物・現象について関心、探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身につけている。
主な評価方法	定期考査と課題提出などで総合的に評価する。	定期考査と課題提出などで総合的に評価する。	実験の態度・出席状況・実験レポート提出などで総合的に評価する。

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	3 学年
科目名	*ニュースポーツ	所属教科	保健体育科	単位数	2 単位(選択)
指導概要と 習得目標	<p>(1) スポーツの特性に応じた技能を身に着け、健康や安全に留意しながら運動を親しむことを習慣化する(知識・技能)</p> <p>(2) 運動について、自身や仲間(グループ)の課題を見つけ、解決に向けて思考判断しながら他者との対話ができる力を身に着ける(思考力・判断力・表現力)</p> <p>(3) 誰でも気軽に親しむことができるニュースポーツを体験し、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、状況に応じて自身の体力を高める方法を身に着け、運動やスポーツの習慣化につなげることで健康の保持増進と体力の向上を図る(学びに向かう力)</p>				
指 導 内 容	学期	指 導 事 項	指 導 内 容		時数(予定)
	1	ニュースポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトバレーボール</li> <li>・バウンドテニス</li> </ul>		28 時間
	2	ニュースポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットバードゴルフ</li> <li>・アルティメット</li> </ul>		28 時間
計	3	ニュースポーツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フットサル</li> </ul>		14 時間
授業展開	ニュースポーツや科目「体育」では扱わない種目を中心に授業を展開する。				
使用教材等	なし				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技のルールを理解し、ゲームの運営に協力する</li> <li>・技能を習得し、実践する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協力してチームプレーを行う。また、そのための良好なコミュニケーションをとる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技に取り組むだけでなく、競技の運営や、準備・片付けも積極的に行うことができる</li> <li>・体を動かすことや課題を解決することに喜びや楽しみを見いだすことができる</li> </ul>
主な 評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールの理解(ゲーム運営)</li> <li>・実技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間とのコミュニケーション</li> <li>・グループ、チームワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備、片づけ</li> <li>・ゲームの運営(審判)</li> <li>・仲間との協力</li> </ul>

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	3 学年
科目名	*テクニカル・ イングリッシュ	所属教科	外国語	単位数	2 単位 (選択)
指導概要 と 習得目標	<p><b>学習の到達目標</b></p> <p>・英語を通して、情報や他人の考えを的確に理解し、自分の考えを簡単な表現で伝える能力を伸ばす。また、英語の基礎力（文法事項を含む）を週 2 回の授業を通じ養成する。進学する選択者もいることから、4 年制大学での学習の基礎となる英単語をできる限り多く、学習する。</p> <p><b>学習方法等（授業担当者からのメッセージ）</b></p> <p>・ Motion Memory 理論に基づいて、自分のノートまたはプリント等に手書きで英文を書く・写すことが、英単語や英文を記憶・暗唱するためにとっても大事になります。後で見返したり復習したりする時のために、ファイルに綴っておくことも大切です。</p> <p>・ 単語集などで英単語の意味を、たくさんの中から探し出す訓練をすることも大事になります。例えば、save には、「節約する」と「救助する」という意味があり、文脈・本文の中で適切な意味を探し出すことが大切です。</p> <p>・ 年齢が若い皆さんには、訓練すれば必ず伸びる力がありますので、週 2 回の授業を大切にして簡単な英語表現を身に付けられるように努力しましょう。</p> <p>・ 工業という専門教科を学習している皆さんはとても忙しい高校生活を送っています。しかし、機会があれば実用英語検定試験の 3 級・準 2 級等に挑戦するのもよいでしょう。時間をみつけて受験し、合格している生徒も実際にいます。</p>				
指 導 計 画	学期	指 導 事 項	指 導 内 容	時数 (予定)	
	1	UNIT 01 動詞の時制 エッセイ【生活】 (173words) 現在形・過去形・未来の表現 UNIT 02 完了 説明文【動物】 (177words) 現在完了形の作り方 UNIT 03 助動詞 ウェブサイト【人生】 (190words) 注意すべき助動詞表現 UNIT 04 受動態 説明文【音楽】 (202words) 受動態の書きかえ、by 以外の表現など UNIT 05 不定詞・動名詞 ① 説明文【身体】(206words) 不定詞の3用法、動名詞のさまざまな形 UNIT 06 不定詞・動名詞 ② グラフ問題【ボランティア】(210words) 不定詞・動名詞の注意すべき使い方	<p>※評価の観点：</p> <p>(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・少年、少女、男、女という主語を適切に選択し、動作に応じた動詞(現在進行形)と目的語を使用し、イラストの中の人物の動きを簡単な英文で表現(speaking/writing)できる。(a,b)</p> <p>・英文を読み取り5W1H が正確に理解でき、設問に答えられる。(a,b)</p>	28 時間	

	2	UNIT 07 分詞 エッセイ【社会】 (221words) 分詞を使った表現 UNIT 08 関係詞 ① 説明文【生活】 (224words) who と which の使い方 UNIT 09 関係詞 ② 説明文【食文化】 (232words) 関係詞を使った文、省略で できる関係詞 UNIT 10 比較 エッセイ【教育】 (246words) 比較級・最上級の作り方、 比較表現 UNIT 11 さまざまな文型 エッセイ【文化】 (254words) SVO + to [for]、 SVOO、SVOC UNIT 12 間接疑問 説明文【伝記】 (255words) 間接疑問の作り方と語順	・自分の考えや意見を、具体例等を示すことにより相手に伝わりやすいように努力したり、はっきりと(又ゆっくりと)短い英文を話したり書いたりしている。使用している教材・プリント等へきちんと書き込んでいる。(c)	28 時間
	3	UNIT 13 接続詞 エッセイ【科学技術】 (261words) 接続詞の意味と使い方 UNIT 14 代名詞 説明文【自然】 (281words) 代名詞の意味、代名詞を使った表現 UNIT 15 前置詞 説明文【文化】 (289words) on, at, for, in など:前置詞を使った表現	・コーパス3000を学習し増やした知識を、小テストや定期テストで発揮できる。(a)	14 時間
授業展開	問題集を使用した授業を原則とする。選択科目であるため、受講者の自主的な学習活動を期待する。さらに単語力をつけるために副教材である「コーパス 3000」による学習を各自に義務づけ、単語力の増強を図っていく。評価は、各考査の得点に加えて、出席の状況、授業中の学習態度、質問等への発言などの観点から総合的に判断する。			
使用教材等	トランスファー英語総合問題演習 course B 桐原書店 コーパス 3000 東京書籍 配付するプリント教材			

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・英語の音声・語彙・表現などの知識を深め、目的・場面に応じ適切に活用しようとしている。	・英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細や代名詞が示す内容、相手の意図を理解している。 ・英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	・単語集を参考にして、単語の意味を確かめる等主体的に学習に取り組み、簡単な表現でも自分の考えを相手に伝えようと努力している。また、積極的にノートをとっている。
主な評価方法	・筆記試験の結果	・筆記試験の内容 (writing・思考判断) ・JTE (または ALT) との対話内容 (speaking)	・授業中の形成的評価 ・「生徒による自己評価」の記述内容 ・出席率

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標

学校名	駒ヶ根工業高等学校
作成	令和7年 12月

\* 目標として設定するのは「生徒の8割が到達できる」レベルです。

【卒業時の学習到達目標】

身近なことや興味あることについて要点を理解したり、それについて簡単な英語を用いて自分の考えを表現することができる。

【第3学年】

読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]
学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標
易しい英語で書かれた身近なことや工業に関する文章を、何度も読み返せばあらすじや要点を理解することができる。	身近なことについて、ゆっくりはっきり話されれば理解することができる。	身近なことについて、簡単な英語で自分の考えを表現することができる。	身近なことや興味あることについて、簡単な英語で伝え合うことができる。	身近なことや興味あることについて、簡単な英語で自分の考えを発表することができる。

【第2学年】

読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]
学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標
易しい英語で書かれた物語や身近なことに関する短い文章を、イラストや写真を参考にすれば、あらすじや要点が理解できる。	身近なことや工業高校に関する話題について、簡単な英語でゆっくりはっきり話されれば理解することができる。	自分自身のことや身近なことについて、簡単な英語で短く書くことができる。	定型のあいさつや身近な話題について、簡単な英語で伝え合うことができる。	自分自身のことや身近なことについて、簡単な英語で発表することができる。

【第1学年】

読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]
学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標
身の周りにある簡単な単語や語句を読み、それらが意味することをおおよそ理解できる。	身近なことについての簡単な情報を、ゆっくりはっきり話されれば理解することができる。	自分自身のことについて、簡単な英語で短く書くことができる。	自分自身のことについて、簡単な英語で伝え合うことができる。	自分自身のことについて、簡単な英語で発表することができる。

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	3 学年
科目名	フードデザイン	所属教科	家庭	単位数	2 単位 (選択)
指導概要と習得目標	食・調理について基礎基本を重視しながらテーマごとに知識を深め、それに沿った実習を行うことで、より実践力を高める。食事の生理的役割、社会的役割の両面について考え、健康的で楽しい食事の有効性についての理解を得る。				
指導計画	学期	指導事項	指導内容		時数(予定)
	1	第2章 栄養素と食品 1 栄養素と消化・吸収 2 各栄養素のはたらき 3 食品とその特徴  第4章 調理してみよう 1 なぜ調理するのか 2 調理操作と調理器具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養素とは何か。</li> <li>・五大栄養素とそれぞれのはたらき。</li> <li>・各栄養素の特徴。</li> <li>・五大栄養素以外の栄養素。</li> <li>・各食品の特徴。</li> <li>・各食品の調理性。</li> <li>・各食品がどのように加工されるか。</li> </ul>		20時間
	2	4何をどれだけ食べる？  第3章 食品の選択と取り扱い 1 食品選択のコツ 2 食品の衛生と安全 3 食の安全を考えて選ぶ  第5章 各国料理とコーディネート 1 料理の様式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本人の食事摂取基準」や食品群別摂取量のめやすを食事計画や献立への活用。</li> <li>・ライフステージごとの栄養の特徴、食生活上で気をつけること、調理法の工夫。</li> <li>・生鮮食品の選び方や表示。</li> <li>・加工食品の表示方法や期限表示、アレルギー表示。</li> <li>・容器包装リサイクル法、マークの意味。</li> <li>・遺伝子組換え食品やポストハーベスト農薬などの定義。</li> <li>・添加物の安全性や表示。</li> <li>・食の安全を守るための国の対策や安全性度。</li> <li>・日本料理、西洋料理、中国料理のそれぞれの特徴や献立。</li> <li>・料理ごとのマナーやサービス。</li> <li>・調理実習</li> <li>・調べ学習</li> </ul>		36時間
	3	第1章 健康と食生活 1 食事の意義と役割 2 食を取り巻く現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の5つの役割。</li> <li>・家族や仲間と一緒に食事をする意味。</li> <li>・食生活がどのように変化してきたか。</li> <li>・生活習慣病など現代の食生活の課題と注意点。</li> <li>・日本型食生活の特徴。</li> <li>・調理実習</li> <li>・調べ学習</li> </ul>		14時間
授業展開	授業内容をしっかりとプリントに記入し提出する。 食生活をデザインするための実習を取り入れながらすすめる。 調理実習においては、安全面・衛生面・作業効率・環境面など幅広い視点を持って臨んでいるか確認する。				
使用教材等	教科書：「フードデザイン 新訂版」(教育図書) 副教材：「フードデザイン ワークノート」(教育図書)				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。	食生活の現状から、食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担うための合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。
主な評価方法	定期テストや小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	授業プリント、調理実習の記録および提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や発言内容の評価するとともに、生徒が自己評価を行った結果を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	3 学年
科目名	服飾手芸	所属教科	家庭	単位数	2 単位 (選択)
指導概要と習得目標	手芸の種類と特徴、手芸の変遷、服飾材料としての各種手芸の技法を理解し、創造的な手芸作品の製作と服飾への活用ができる資質・能力を身につける。				
指導計画	学期	指導事項	指導内容	時数(予定)	
	1	手芸の種類と特徴	・衣服全体をひきたてるためにどのような手芸品や装飾があるか学ぶ。	20時間	
		手芸の変遷	・刺繍、織物、染色の起源や変遷を学び、現代ではどのように利用されているか学ぶ。		
		手芸品の製作	・織物の知識、技法を生かし作品を製作する。		
2	手芸品の制作	・染色の知識、技法を生かし作品を製作する。	36時間		
3		・刺繍の知識、技術を生かし作品を製作する。	14時間		
授業展開	手縫い、ミシン縫い、手工芸、編み物など基本的な服飾手芸の技法を身につけることを目的にし、身近な材料を用い豊かな生活を自ら創造し作品を製作していく。				
使用教材等	生地、毛糸、刺しゅう糸 等				

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	手芸の種類と特徴や変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解している。	手芸の美的価値や製作工程に関する課題を発見し、日常生活を豊かなものとするために、どのように取り入れたらよいかを、創造的に考える能力を身につけている。	より美しい作品を製作することを目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的に取り組む態度を身につけている。
主な評価方法	小テストの結果および製作した作品の出来映えを総合的に判断して評価する。	作品製作カードや製作した作品の表現を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や生徒が自己評価を行った結果を参考にしながら、総合的に判断して評価する。